

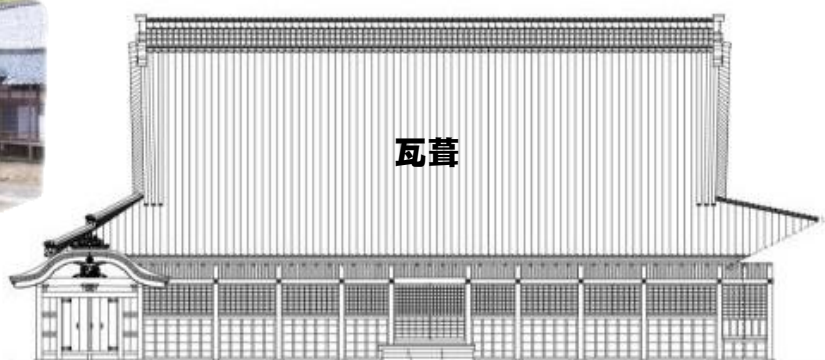
大安禅寺 本堂と山門が 昔の姿に生まれ変わります

現在工事実施中の本堂と山門は、文化庁の指導のもと、史実に基づき昔の姿に戻される(復原)こととなりました。工事前の姿とは大きく変わりますので、比較してご紹介します。

本堂



工事前の本堂(正面)



本堂の屋根は明治44年、瓦葺に大改修されていました。



本堂の完成予定図(正面)

明治の改修前は、上部が茅^{かやぶき}葺、その周囲がこけら葺(板葺)であったことがわかり、今回の修理で本堂は大きくその形を変えて生まれ変わることとなります(このうち上部の茅葺については積雪等の対策を考慮して茅葺の型を模した銅板葺となります)。

山門

【山門周辺の変遷】

もともと、山門より寺へと続く自動車用の道路はありませんでしたが、自動車の普及に応じて順次車道が整備されていった経緯がわかります。



大正時代の山門



戦後頃の山門



昭和 40 年代の山門

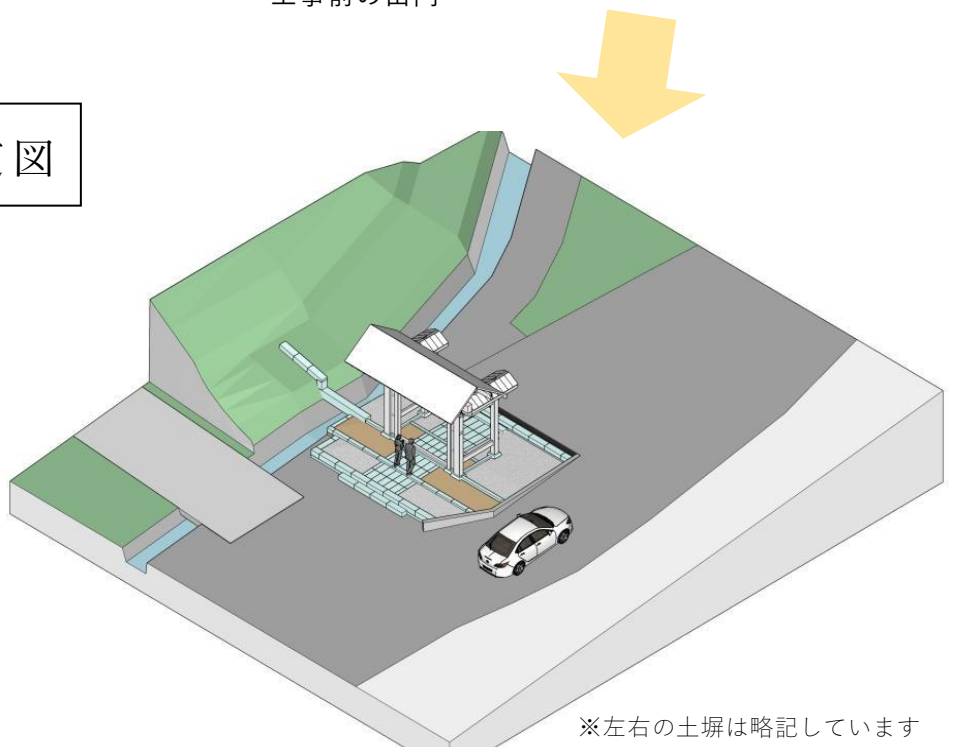


工事前の山門

山門周辺の整備予定図

山門も車道整備前の姿に
近く生まれ変わります。

山門下アスファルト舗装
の斜路を廃止して石段を設
け、石敷の参道に整えます。
また屋根は、越前赤瓦で葺き
直されます。



※左右の土塀は略記しています